

全体講評

H19年の問題については非常によくできていると思います。バーネットの説の問題点を的確に指摘し、それに対する自分の意見をきちんとまとめられています。この問題については80点程度の評価を出せると思います。ただ、H23年の問題については解答がやや表面的でした。これまでの傾向を見た印象では、法律にからむ出題の場合はよくできていますが、一般的な文章を読ませて解答させる問題になると、説得力がなくなる傾向にあります。様々な文章に対応できる論述力を付けていくことが課題になります。

それぞれの設問について細かく見ていきます。H19年の問題は3つの問題点が適切に指摘できています。ただ、全体に「～であろう」「～か疑わしい」などのやや自信のない表現が気になります。論文では自信のないところでも、「～だ」「～である」とはっきり言い切ってください。

第三段落の「被害者なき犯罪」を不処罰にするバーネットの説への反論は説得力が弱いです。麻薬や売春は治安の悪化を招き、人々が平穩に暮らすことができなくなります。そのこと自体が社会に損失を与えており、平穩に暮らしたいと考えている人に損失を与えています。さらにこれらを放置すれば、生産性が低下し、経済的にも社会に損失を与えます。このような点から社会全体が被害者であり、「被害者なき犯罪」にはならないことを指摘しましょう。

H23の問題は、設問の言い回しが非常に微妙なのですが、「どのような考え方が横たわっていると思いますか」とあります。これは課題文を参考にしながら、その背景を推察するように求めているのであり、課題文からそのまま書き抜くだけでは不十分です。実際のところコーリーの母親の言い分に関しては「娘の人気の反感ではないか」としか書かれていませんから自分自身で背景にあると考えられるものを補いながら解答する必要があります。下記に考え方を示しましたので参考にしてみてください。

最後の設問は、着眼点はよいです。概ね合格ラインといえるでしょう。

論述力…文章表現に誤りはないか、構成力はあるか	説得力…適切な根拠を元に論じているか。具体的か。	創造性…借り物でないオリジナリティのある意見か	読解力…課題文、図表を適切に理解できているか	得点	合格目標点
B (A～E)	A (A～E)	C (A～E)	C (A～E) 課題文、 図表のある問題のみ	73	75

書きなおす上での注意点

H23年の問題について解答の方向性を考えていきます。

問Ⅰ・1

キャプテンの父親の考え…

- ① チアリーダーのメンバーになるには正式な試験に合格する必要がある。それに合格した者が、チアリーダーという地位と名誉を手にすることができる。
- ② 障害者だからといって試験を免除すると、他の受験者に対しても不平等になる。
→この観点からコーリーを特別扱いすることはできない。

コーリーの母親の考え…

- ① 障害のあるものは、健常者と同じ基準では社会に参加できないのであり、ある程度の優遇は許容されるべきである。
- ② 宙返りなどができないとしても、チアリーダーとしての熱意や資質に問題がなければ受け入れるべきである。反感やねたまから反対運動が起きたとしたら、問題である。

問Ⅱ・2

- ・障害者はハンディキャップを負っており、健常者と同じ試験を受けさせることは不公平である。そこで障害者向けの試験を新たに作り、これに合格すれば、コーリーをメンバーとして迎え入れることにする。
- ・これによって双方の要求にそった解決策が見いだせる。